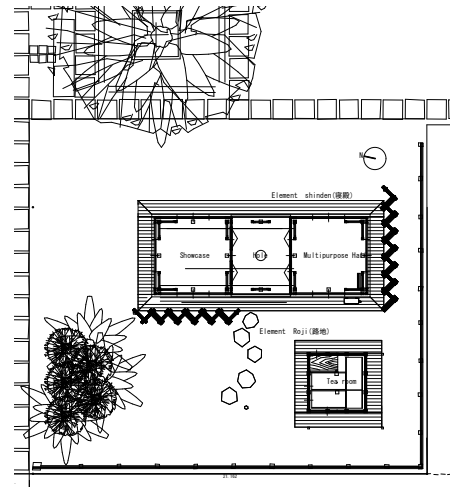


# アジア産地直送住宅



本プロジェクトは、地方創生支援事業を活用し、我が国の森林資源活用及び木造技術の継承と国際交流を目的として東南アジアへの在来木造住宅構法を用いた産地直送輸出事業を行うものである。日本4企業、タイ2企業、日タイ6大学の研究者が参画する事業組織により、奈良県御杖村他、20団体及び企業の協力を得て実施された。

タイは、森林伐採禁止による木材不足や性能への不信から、都市部の住宅はRC造が多い。しかし、RC造は熟練工不足により品質は低く脆弱であり、RC造特有の気密性と蓄熱性は、タイの気候には合わず結露やヒートアイランド現象を引き起こしている。これらの問題を解決すべく、日本から伝統的な在来軸組構法の技術・木材を輸出することが本プロジェクトの目的である。また、モデルハウスは家屋だけでなく茶室も設え、タイの人々が日本文化を通して、木造建築の美しさや木の香りといった五感に訴える建物にもなっている。タイの気候に合った木造建築物の再普及や持続可能な建物を提案することにより、日本から木材輸出が盛んになることで日本の林業の活性化が見込まれる。



施工風景

白蟻暴露実験



茶室

目隠しウッドフェンス

多目的スペース内部

